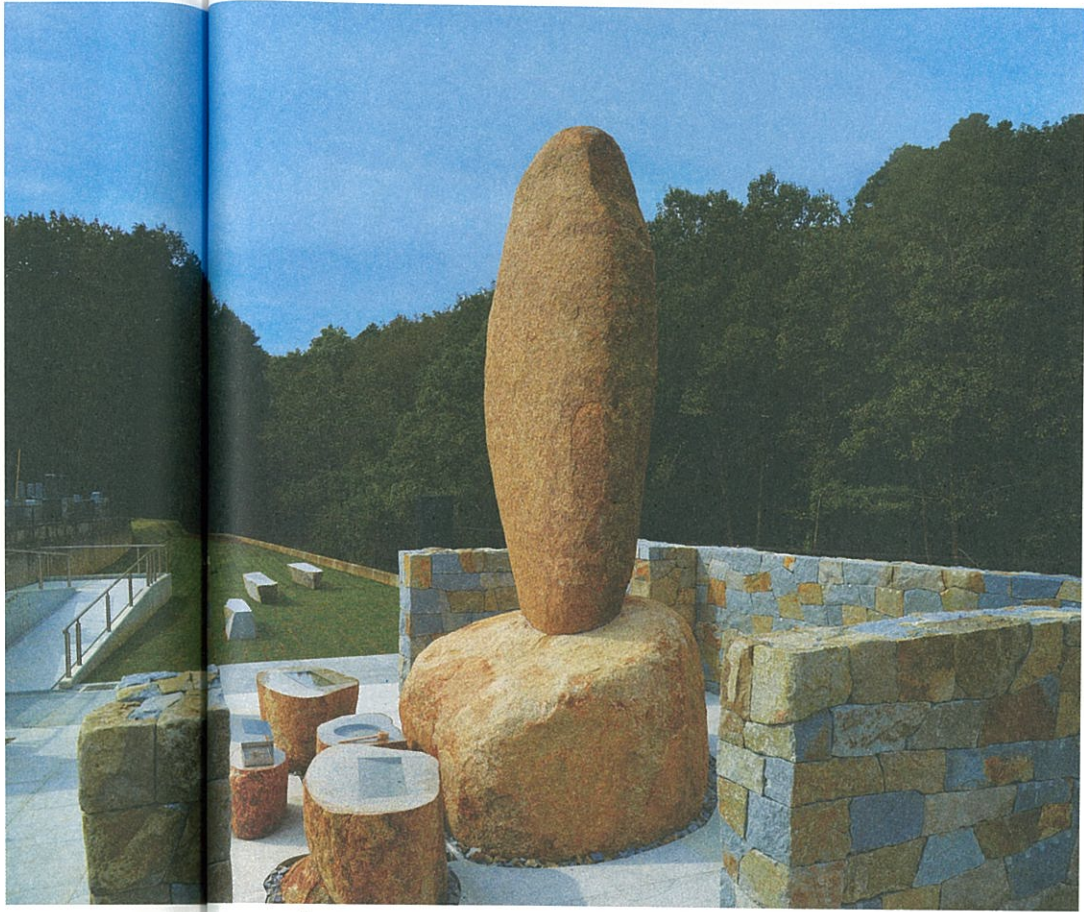


「庭園美術館」の永代供養墓

世界的石彫家がデザイン

「昭和浄苑「浄縁墓」 埼玉・千葉」



「万成石」の原石を立ててつくった墓碑。芯が通っており大地震にも耐えられる(千葉県船橋市)

「ここを選んでよかった」。そう思ってもらえる永代供養墓にしたい。東京都江戸川区にある、證大寺の井上城治住職は永代供養墓に対する強い思いを持っている。

寺が管理運営する千葉県船橋市の「船橋昭和浄苑」と埼玉県東松山市の「森林公園昭和浄苑」に完成した永代供養墓は、旧来の墓地の観念を超え「庭園美術館」と呼ぶにふさわしいこだわりと迫力がある。

緑に囲まれたなか一般墓が並ぶ霊園を歩くと、千葉の霊園では高さ5.5メートル、埼玉の霊園では横4メートルの碑が迎えてくれる。国産の銘石として知られる万成石の原石だ。これほどの大きさの



井上城治住職

原石は極めて珍しい。周囲には「花崗岩のダイヤ」と呼ばれる庵治石を積み重ねた壁が取り囲んでいる。これが證大寺の永代供養墓だ。地縁血縁をこえた浄土の縁という意味を込め「浄縁墓」と名づけた。

遺骨は碑の下に設けられた空間に納める。1000年を経ても、墓が墓であり続けるように、地下空間、墓碑ともに強度の耐震設計がされている。

デザインは京都迎賓館の庭などを手がけてきた石彫家の和泉正敏さん。世界的芸術家イサム・ノグチ氏の終生のパートナーとしても知られている。「おしやれをして訪れたくなる場所」をコンセプトに

者同士が集える機会が多数用意されているのが特徴だ。

墓に眠る人のための供養も丁寧だ。毎朝、本堂で僧侶と職員が読経して供養するほか、月の法要、年に1度の合同法要を欠かさない。寺が存続する限り1000年たっても法要は続くことになる。

彼岸などの法要の際には、浄縁墓の前で1時間おきに読経と法話が勤められ、一般の参加者も含め多くの人と一緒に手を合わせる光景がみられる。「お寺やお墓という存在が、亡くなった方への供養を大切にできる場であるとともに、現代を生きる人たちにとって自身自身を見つめ直し、感謝と尊敬の心を見いだせる場でありたい」と考える井上住職。昭和浄苑では、そんな思いが具現化しつつある。

「毎日、毎月、毎年、そして1000年先も供養を」

設計したという。和泉さんは「石そのものを生かし、みなさんが自然と手を合わせていただけるものにした」と考えました」とメッセージを寄せている。

墓を介した縁を大切に

寺が永代供養墓を建立したのは2013年。背景には、墓を介した仏縁を大切にしていきたいという思いがある。

1985年に整備された、船橋



北木石の敷石には水が流れる仕組みがあり周囲を庵治石で積み上げた壁が囲む(埼玉県東松山市)

昭和浄苑の広さは甲子園球場並みの3万4000平方メートル、森林公園昭和浄苑はその1.7倍。それぞれ都会の喧騒を離れた、大自然のなかにある。ほかに本坊のある東京都江戸川区も含め、全体では約1万1000基もの一般墓が並ぶ。

だが、整備から30年近くがたったことで、次世代への墓の継承が難しくなったという声が出てきた。永代供養墓の「浄縁墓」はそんな人たちのセーフティネットと

して整備された。もちろん現在、苑内に墓を持たない人たちの生前予約も歓迎だ。

仏教人生講座などで交流深め

「お墓を求めたら、それで関係が終わりということにはしたくないのです。お墓が縁となって、これからをよりよく生きていくことにならなっていく。お墓に入るまでの時間を大切にしたいのです」と井上住職。

だから昭和浄苑では、苑内に墓を持つ人や、浄縁墓を生前契約した人たちとの関係を大切にしている。新しく契約した人たちには、月に1度開かれる「入会式」に参加してもらい、寺側の思いを伝えるようにしている。「仏教終活」と名づけた人生講座なども盛んに開き、参加者らの交流へとつながっている。契約して終わりではなく、契約

■昭和浄苑「浄縁墓」 船橋昭和浄苑・千葉県船橋市大神保町1306/森林公園昭和浄苑・埼玉県東松山市大谷196。
一般販売価格、1人60万円。浄土真宗の法名(戒名)料を含む。仏教講座や終活セミナーへの参加が無料になるなどの特典がある。本坊・東京都江戸川区春江町4-23-1。問い合わせは、證大寺 03-3655-4499へ。